

ブレイルフレンドリープロジェクト代表の加藤英理です。

点字や点字の楽譜をモチーフにしたアート作品「ブレイルフレンド」を制作しています。

「自分らしさは気付いた回数」をコンセプトに、目が見える見えない関係なく、どんな人も一緒に楽しめる作品を作っています。熊本県を拠点に、作品展や点字体験ワークショップなどを各地で開催しています。

<https://www.braillefriend.com>

●皆様へお願い

点字楽譜モチーフの絵本「ブレイルフレンドコンサート」を補助金で絵本を500冊作ったのですが、事情により補助金が使えないことになりました。

印刷会社からは納品してもらっているため、支払いをしなくてはいけません。

つきましては、5月中旬に制作費用85万円を調達したいです。

絵本の内容やについては、こちらをご参照ください。本文・画像・音源が確認できます。→

ご興味がある方は購入もしくは、お知り合いに紹介していただけませんか。

また、銀行振込による購入も受け付けています。(入金確認後の発送になります)

(振込先) 熊本銀行 田崎支店 普通口座

口座番号 3100167

名義 ブレイルフレンドリープロジェクト 加藤英理



販売価格：3,300円(1冊/税込) 10,000円(5冊セット)もあります。

送付先の氏名・住所・ご注文冊数をメール (braillefriend@gmail.com) ください。

●絵本「ブレイルフレンドコンサート」を作ったきっかけ

絵本を作るきっかけは、視覚障害者の女性からメッセージをいただいたことです。

「私は視覚障害者だが、子供は目が見える。

絵本の読み聞かせをヘルパーさんに頼んだが、子供が『ママに読んでほしい』と言って聞けなかった。

そこで、独学で点字を勉強したり、ヘルパーさんが朗読したものを録音し暗記して、なんとか対応した。

けれど子供が成長するにつれて『黒い犬がいるね』『メロンの口は四角(□)だね』など、視覚的なことを言われると、さすがに分らなかつた。

一生懸命子供が絵のことを話すのを、理解してあげられないことが、申し訳なくて悲しかった」

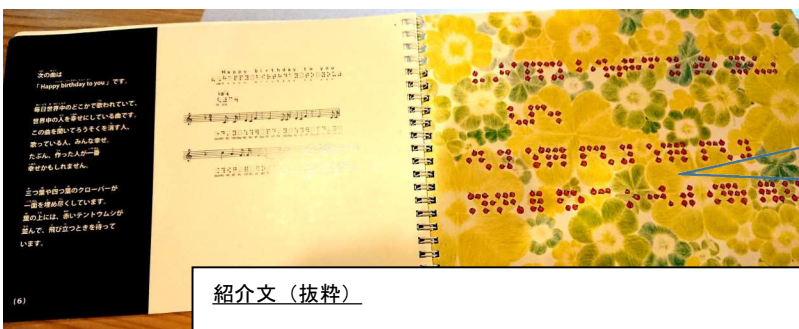
と、話してくださいました。

私は、子供と一緒に絵本が読めない悲しみがあることを初めて知りました。

そしてこれは、社会からも気付かれにくいだろうと、孤独感を感じました。

ブレイルフレンドが、彼女の悲しみや孤独感にどれほど寄り添えるのか分かりませんが、制作した絵本では、どなたでも一緒に読めるよう、思い付く限りの工夫をしました。

漢字にフリガナをつけたり、白黒反転(ロービジョンの方が見やすいよう)にしたり、ホームページに本文を載せて音声読み上げ機能に対応しています。



右ページ：「Happy Birthday to you」のメロディと同じ位置にテントウムシが並んでいます。

左ページ：曲の紹介文と、元になった楽譜を載せています。

紹介文 (抜粋)

毎日世界中のどこかで歌われていて、世界中の人を幸せにしている曲です。

この曲を聞いてろうそくを消す人、歌っている人、みんな幸せ。

たぶん、作った人が一番幸せかもしれません。

三つ葉や四つ葉のクローバーが一面を埋め尽くしています。

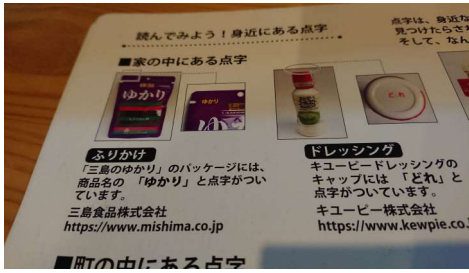
葉の上には、赤いテントウムシが並んで、飛び立つときを待っています。

●巻末付録

「身近にある点字」を紹介しています。

すべてブレイルフレンドの活動をする中で、私が経験したことを元にしてあります。

○ふりかけの「ゆかり」



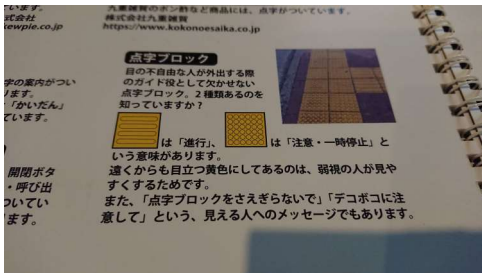
ふりかけの「ゆかり」に、点字がついていることをワークショップなどで紹介したところ、参加された親子から、「帰宅して、キッチンにある『ゆかり』を見たら本当に点字がついていた。

子供と一緒に驚いて点字に触ったり、なんて書いてあるのか調べたり、楽しかった」

と、連絡いただいたことがあります。

何気ない日常にも発見があり、こういう経験をした子供は、自然と点字や視覚障害に興味を持ってくれると思います。

○点字ブロック



視覚障害のある友人が、白杖を持って点字ブロックの上を歩いていたら、前を横切った人がいたという話を聞いたのがきっかけです。

横切った人が、友人が持っていた白杖につまずいて転んで怪我をしてしまったのです。

友人は、白杖を持って点字ブロックの上を歩いていたので、悪いわけではないのですが、「人に怪我をさせてしまった」と気に病んでいました。

おそらく、友人の前を横切った人は、視覚障害者が歩いていると分らなかったのかもしれない。

友人は人に怪我をさせたかった訳もなく、横切った人も歩いているのが視覚障害者だと気付いたら、道を譲るなりしたと思います。点字ブロックや白杖を知っていたら防げたはずの出来事です。

障害は当人だけのことでなく、周囲の人(健常者)にも関係があることを知ってほしい、と友人からのメッセージを受け、絵本に掲載しました。

●ブレイルフレンドのこれから

ブレイルフレンドの作品や点字に触れた方からは、「点字や視覚障害について知るきっかけになった」と感想をいただいています。

特に、「なんとなく大変そう」というイメージだけではなく、触れて情報(文字や音符)を読むという、独特な世界があることに驚かれます。

一方で、子供に絵本を読み聞かせできない悲しみもあります。

私は、それを知ってしまったからには無視することはできないし、作家として表現しないわけにはいかないのです。今回の補助金の件は思いがけないことで、はじめは困惑しましたが、今は点字や視覚障害について多くの人を知ってもらえるチャンスだと思っています。

なお、点字の絵本は次回作の予定があり、制作の準備を進めています。

古典「虫愛ずる姫」をモチーフに、生物の多様性や物事の本質を見極めることの大切さを問う内容です。

○今後の予定

- ・南関中学校での講演 日時：6月24日

熊本県北部の南関中学校から依頼で、中学生に向けて「仕事」「働くこと」について講演をします。

今どきの中学生と話す機会なんてめったにないので、楽しみです。

- ・点字アート作品展～テンジノテンジ～ 日時：7月17～19日 会場：三角西港浦島屋(熊本県宇城市三角町)

今年で3回目の開催となる三角西港での作品展。

小泉八雲に縁ある会場にちなんで19日には、琵琶の演奏会と小泉八雲旧居館長による講演会を行います。

※小泉八雲(ラフカディオ・ハーン/1850年～1904年)は、明治時代に活躍した文筆家です。

彼は、ブレイルフレンドの活動拠点である熊本県に住んでいたことがあり、彼の著書をモチーフにした作品がいくつかあります。

あまり知られていませんが、小泉八雲は若いころ左目を失明し、もう片方の目も衰え、物が見えにくかったそうです。残っている彼の写真は、左目を隠すように右側から撮ったものばかりです。

「点字」とは直接の関係はありませんが、視覚障害に関心を持ってもらう題材として取り上げています。

●お問い合わせ

ブレイルフレンドリープロジェクト(代表/加藤英理)

電話：090-8667-5030

Mail: braillefriend@gmail.com